コンピュータを活用した国語科の学習

桜ヶ丘小学校（実践者）秋山　敦史
（報告者）佐藤　貢

1　単元名　様子を思い浮かべて読んでみよう　　第３学年（国語）

2　単元の目標

言葉から浮かんでくる情景を想像しながら、詩を読み味わう。

3　情報機器活用の意図・情報教育の視点

児童は詩を読む学習から、情景を想像しながら読み味わう学習をしてきた。次に、コンピュータを使って作品を作ることによって、より自分のイメージにあった挿絵や詩を作る。

また、本校では、第３学年は総合的な学習の時間において年間 17 時間、コンピュータ活用の時間がある。低学年では、コンピュータの立ち上げや消し方、各部の名称などの基本的なことを学習してきた。そこで、本単元では、４時間にわたって、一つの作品を作ることを通して、保存の仕方やファイルの開き方などの操作を身に付けさせることをねらいとしている。また、本校のコンピュータリテラシー指導計画では、中学年の段階までに画像ソフト操作の主な項目を経験させたり、印刷、文字入力が正しく使用できるように計画されている。

4　実践の概要

時間	児童の活動	教師の支援・指導
1	○詩を読む 『夕日がせなかをおしてくる』	・「もう少し遊びたい」という子どもたちの心の葛藤の情景が思い浮かぶように、全員読みしたり群読したりと工夫することによって、詩の世界に浸って楽しめるようにする。
2	○詩を読む 『ゆうひのてがみ』 『いちばんぼし』	・ゆうひにこめられた、ゆうひのもつ温かさ、家族の温かさ、郵便を送る人の温かさ、受け取る人の温かさ、を感じながら読むことができる。 ・大きな自然、宇宙と自分が一体化するような情景を想像しながら読むことができる。
3	○自分の詩を作り、詩にあった挿絵を描く。	・今までの学習から、二連の詩や繰り返しの表現を使った詩を作り、詩にあった挿絵を描くようにする。
4	○詩の文字を打つ （一太郎スマイルのワープロ機能）	・コンピュータ教室の決まりを確認する。 ・ノートパソコンの使い方を説明する。 ・文字パレットを使い方。 （ひらがな打ちも経験があるが、今日は文字パレットを使うことを伝える。） ・基本的なワープロソフト操作を確認する。

		（漢字・カタカナへの変換の仕方。段落の変え方） ・保存の仕方を説明する。
5	○詩に合った絵を描く （一太郎スマイルのお絵かき機能）	・基本的な画像ソフト操作を確認する。 （線の描き方、塗りつぶしの仕方、スプレーの仕方、消しゴム、切り取りなど））
6	○詩に絵を貼り、体裁を整える。 （一太郎スマイルのワープロ機能）	・書体の変換の仕方、文字の大きさの変え方を確認する。 ・絵と文字が重なる場合、文字の大きさや文字の色、書体を変えて、より良いものに近づけていくようにする
7	○作品を鑑賞しあう。	・印刷の仕方を確認する。 ・友達の作品の情景を思い浮かべながら鑑賞する。 ・作品の良いところを出し合う。

5　成果と課題（○成果　●課題）

○ローマ字入力の学習は 4 年生で行うことであ、前段階の 3 年生では、かな入力で行うのは難しく、文字パレットを使ったのは効果的だった。

○デスクトップは 20 台ある。34 名のクラスなので一人一台で作業をさせたく、ノートパソコンも使った。その結果、ノートパソコンの使い方を覚えるとともに、二人一台より待ち時間がなく効率的に時間が使えた。

○絵を描く学習のときに、児童は自分にとってソフトの新しい機能を見つけると友達に教えたがった。その結果、自然と見合いや教えあいが始まった。

○自分で描いた詩をコンピュータに表すという作業だったが、コンピュータの絵はすぐに修正できるので、紙に描いた絵よりもよいものを作ろうとどの子も努力できた。また、作品を見合ったときも紙に描いたものより、良いものができたと言う児童が多かった。

●クラスの子どもに普段コンピュータをどのくらい使っているのかを尋ねたら、わずか数名だった。ゲームはしているがコンピュータに不慣れな児童はまだまだ多い。そのため、細かなトラブルが多く、児童は教師が回ってくるまでの待ち時間が長くなってしまう。事前の準備はもちろんのこと、子ども同士で効果的に教えあう方法を考えていきたい。

作業をする児童